

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成21年 5月29日現在

研究種目：	基盤研究（C）
研究期間：	2006～2008
課題番号：	18500438
研究課題名（和文）	介護保険施設における介護士のコミュニケーション支援の方法に関する研究
研究課題名（英文）	Designing a communication skill-up program for caregivers in long-term care facilities.
研究代表者	坊岡 峰子(BOOKA MINEKO) 県立広島大学・保健福祉学部・コミュニケーション障害学科・助教
研究者番号：	80405521

研究成果の概要： 介護保険施設の利用者が何らかのコミュニケーション障害を有する場合、質の高いコミュニケーションをとるためには、介護士が利用者個々のコミュニケーション能力に応じた適切なコミュニケーションスキルを習得していることが重要となる。そこで、本研究では、介護士のコミュニケーションスキルの向上を目的に、言語聴覚士が効果的な支援を実施するための、支援プログラムを開発し試行した。その結果、支援後には、介護士のコミュニケーションスキルが向上し、支援の効果がみられた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,800,000	0	1,800,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	540,000	4,140,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：人間医工学 ・ リハビリテーション科学，福祉工学

キーワード： 介護支援技術，コミュニケーションスキル，言語聴覚士

## 1. 研究開始当初の背景

介護保険の導入以降、脳血管障害の後遺症で起こる失語症や構音障害など狭義の言語障害に加え、認知症などの影響によるコミュニケーション障害（両者を合わせてコミュニケーション障害とよぶこととする）を有する人々も介護保険サービスを利用する機会が増えていた。また、言語聴覚療法が老人保健施設（以下、老健と略）などで介護報酬の対象となったこともあり、介護保険施設に勤務する言語聴覚士（以下、ST

と略）は急増する傾向にあった。

しかし、介護保険が導入されるまで、高齢者の言語療法に関わる ST のほとんどは医療機関に勤務していたため、施設に勤務する ST は施設における ST あり方や介護士など他職種者との連携に苦悩しているのが現状であった（本多，2002）。

また、我が国の言語療法は長年、主にコミュニケーション障害者の失った言語機能を回復することに焦点を当てた「伝統的」といわれる言語訓練を主流としてきたこと

より、コミュニケーション障害者の家族や介護者など、日常の会話相手に対する支援に関する研究はすすんでいなかった。とりわけ、居住型の介護施設を利用するコミュニケーション障害者と介護士とのコミュニケーションに関する研究はほとんどみあたらない(Généreux ら 2004) 状況であった。

## 2. 研究の目的

1.のような背景を踏まえ本研究では、介護士が何らかのコミュニケーション障害をもつ施設の利用者とも、質の高いコミュニケーションをとれるよう、介護士のコミュニケーションスキルの向上を支援するための「介護士のコミュニケーションスキルアッププログラム」(以下、本プログラム)を開発することを目的とした。

尚、本プログラムは ST が利用者の認知・コミュニケーション能力の評価および会話場面の観察に基づき、専門的支援を行うことを原則とした。

## 3. 研究の方法

### (1)「介護士のコミュニケーションスキルアッププログラム」の構成と手順

本プログラムの構成と手順は、図1に示すとおり、まず ST が利用者の認知・コミュニケーション能力を評価する。続いて、坊岡ら(2005)が開発した、会話評価素材提供ソフト「会話の散歩道(仮称)」(図2)を使用し、利用者と介護士が1対1で会話して

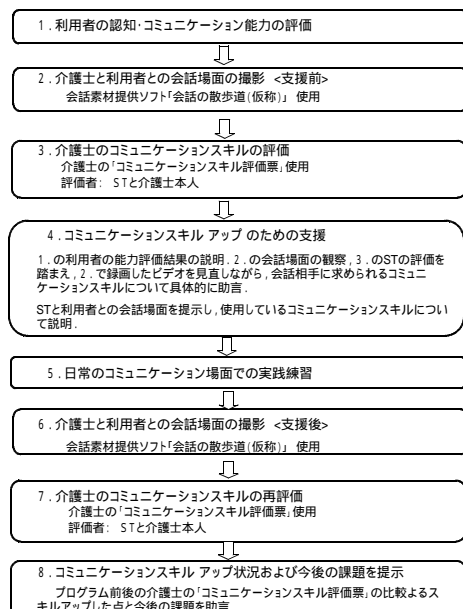


図1 介護士のコミュニケーションスキルアッププログラムの構成と手順

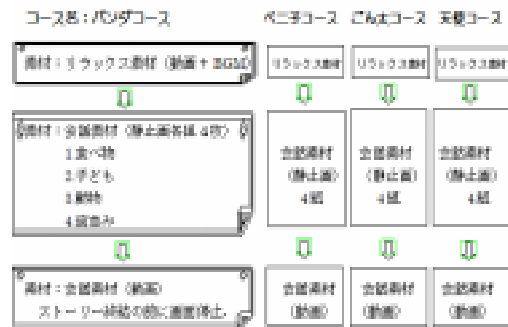


図2. 会話評価素材提供ソフト構成図



図3. 介護士と利用者の会話場面

いる場面(図3)を録画する。支援前の録画終了後、STは利用者の認知・コミュニケーション能力評価の結果と会話場面の観察に基づき、介護士に利用者の認知・コミュニケーション能力に関する説明と、介護士がすでに習得している適切なコミュニケーションスキルおよび、今後の習得課題となるスキルについて助言を行う。また、適切なスキルをイメージしやすいように、同じ利用者がSTと会話している場면을提示するなど、スキルアップのための支援を行う。これらの支援後、再度同じペアで「会話の散歩道(仮称)」の別のコース(図2)を素材とした会話場면을録画する。

この支援前後の、介護士のコミュニケーションスキルの変化により、本プログラムの支援効果と今後の課題を考察した。

### (2) 介護士の「コミュニケーションスキル評価票」の開発

認知症や失語症者のコミュニケーション相手のコミュニケーション能力を評価する方法は確立されておらず、また、本支援プログラムでは、会話評価素材提供ソフト「会話の散歩道(仮称)」を使用したコミュニケーション場面に限定するため、オリジナルの評価票を作成する必要があった。

評価票の作成は、本プログラム開発のプレ研究として A 老健で撮影した、「会話の散歩道（仮称）」を使用した介護士と利用者との会話場面に基に consensus method の一つである Nominal Group Technique(以下、NGT と略)の手法により行った。NGT では、6 組の会話場面に参加者に提示し、介護士のコミュニケーションスキルの評価項目となる概念の抽出、順位付け、カテゴリー分類などを行い、評価項目を検討した。さらに、作成した評価票により評価測定を実施し、評価者間のばらつきや、効果測定スケールとしての有用性について検討した。

尚、NGT により評価項目の検討は 2 回実施し、初回の参加者は、進行・記録係の言語聴覚士 2 名と言語聴覚士養成大学 3 年生 6 名、2 回目は進行・記録係の言語聴覚士 2 名と臨床経験 5 年以上の言語聴覚士 5 名であった。

### (3) 介護士のコミュニケーションスキルアッププログラムの効果分析

本プログラムを B 老健の介護士と利用者 7 組に実施した。実施方法は、本プログラムの効果を多角的に検討するために、支援は実施せず会話場面のみ設定するコントロールケースとコントロール期間などを設定し、延べ 26 回の会話場면을録画した。この会話場면을ランダムに DVD に並べ、臨床経験 5 ~ 7 年の ST 5 名に本研究で開発した「コミュニケーションスキル評価票」により、介護士のコミュニケーションスキルを評価してもらい、本プログラムの効果を分析した。

また、プログラムを実施した介護士には、毎回会話場面の撮影終了後に、会話中および日常会話中での工夫している内容について記述してもらった。

さらに、全プログラム終了後には、本プログラムおよびコミュニケーション障害に関するアンケートを実施した。

## 4. 研究の成果

### (1) 介護士の「コミュニケーションスキル評価票」の開発

言語聴覚士養成大学の学生を中心とした初回の評価項目抽出の結果、45 個の発言があり、NGT の手法により 20 項目からなる評価票を作成し、これを試案版とした。この試案版により、初回の NGT 参加者全員で、

再度 A 老健 6 組の会話場면을観察し、介護士のコミュニケーションスキルを評価し、評価者間のばらつきが多かった項目について、その原因などを話し合った。

さらに、プレ研究で ST の支援前後の会話場面の撮影ができた 1 組について、介護士のスキルを試案版にて評価を行い、支援の効果および支援のポイントを検討するためのデータが得られるかを検討した。

その結果、試案版の作成方法で、本プログラムで活用できるスキル評価票を作成できることが示唆された。また、評価基準をある程度そろえるためには各項目ごとに評価のポイントを記載する必要があること、評価は「そう思わない~そう思う」の 5 段階評価としたが、「非該当」の選択肢が必要であること、1 回の会話場面観察で 20 項目を評価することは困難であること、などが改訂すべき課題としてあげられた。

試案版の作成過程と課題を参考とし、言語聴覚士 5 名を中心に 2 回目の評価項目抽出を実施した。その結果、18 項目で構成される評価票と、各項目の評価のポイントを記載した一覧表を作成し、評価は 5 段階に「非該当」を追加した。これを初版とし、試案版同様に支援前後の介護士のスキル評価を実施した。その結果、評価者間のばらつきが大きかった項目の検討を行い、質問の表現の修正、評価ポイント一覧への加筆、「非該当」の判断基準などの改訂を行い、改訂版とした。この改訂版により、再度支援前後の会話場面でのスキル評価を実施した結果、ST 5 名の評価のばらつきは支援前の場面では、18 項目中 16 項目(88.9%)で 1 段階以内となった。

以上の作成段階を経て、改訂版を本プログラムで使用する完成版とした(資料 1)。

### (2) 介護士のコミュニケーションスキルアッププログラムの効果分析

B 老健で本プログラムを実施した結果を図 4 に示す。

介護士のコミュニケーションスキルの変化を評価票の合計点の変化より考察した結果、ほとんどの介護士で、支援後に評価合計点が上がっていたことより、本プログラムによる支援効果が示された。さらに、会話場面だけを設定した場合には、評価合計点が下がる傾向がみられたことより、専門的支援なしに、単に会話場面だけを設定することは、介護士のコミュニケーションに

対するモチベーションを下げる事が示唆された。

また、利用者に失語症がある場合には、選択肢を書いて示したり、地図を使うなどの残存能力を活用するスキルが習得されやすいことなどコミュニケーション障害の種類によるスキルアップの差や、各評価項目により、習得しやすいスキルと習得には時間がかかるスキルがあることも示唆された。

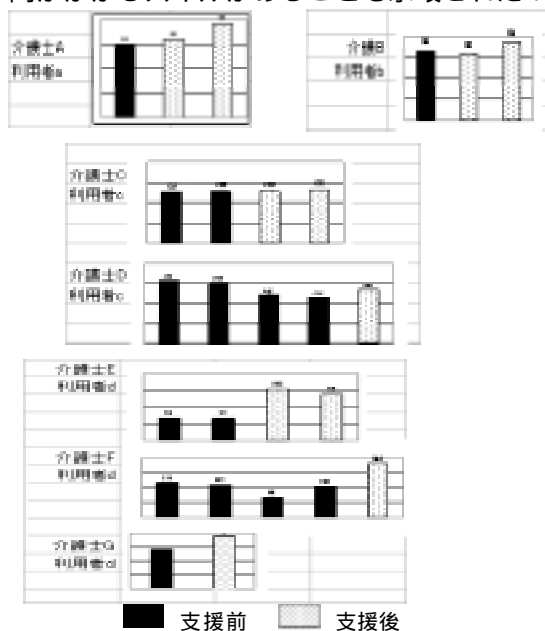


図4. 支援前後の評価合計点の変化

さらに、本プログラム実施後のアンケートには、介護士は本プログラムを経験することにより、自分のコミュニケーションを見直す機会となったこと、利用者とのコミュニケーション質を上げていくためには、介護士が利用者に合わせて適切なコミュニケーションスキルを活用していく必要性などが示されていた。また、本プログラムでの会話を通して、利用者について生活歴など新たな情報を得たことも示されていた。

以上のように、本研究では我が国ではまだ研究のすすんでいない、介護士のコミュニケーションスキルアップを支援するためのプログラムを開発し、その効果も実践を通して明らかにすることができた。

本プログラムを多くの介護施設で実践し、介護士がコミュニケーションスキルを向上させることは、要介護状態にあるコミュニケーション障害者の生活の質の向上につながると考える。また、本プログラムの実践は、介護士が利用者とのコミュニケーションについて見直す機会を与え、さらにコミ

ュニケーション障害をもつ利用者とのコミュニケーションがスムーズになることで、介護負担の軽減にも寄与できると考える。

今後はデータを増やし、本プログラムによる支援効果をさらに明らかにしていくことと、まだ研究のすすんでいない認知症者との談話分析に基づいた、より具体的で効果的な支援方法を検討していく予定である。

本研究への協力に関しては、施設の責任者および介護士、利用者の方々に本研究の趣旨と協力内容を文書と口頭で説明し、書面にて同意を得た。

本研究にご協力下さいました施設関係の方々、専門的見地よりご指導下さいました、広島県立保健福祉大学の綿森淑子名誉教授、関西福祉科学大学の浅野仁教授をはじめご助言を頂きました多くの方々に深謝いたします。

<引用文献>

本多留美(編). 高齢者施設に勤務する ST の現状 - 実態調査結果と今後の課題. 広島県立保健福祉大学コミュニケーション障害学科, 2002

Généreux,S., Julien,M. and Larfeuil,C. et al. Using communication plan to facilitate interactions with communication-impaired persons residing in long-term care institutions. *Aphasiology*, 18(2), 1161-1175, 2004

坊岡峰子・坊岡正之. 会話評価のための会話素材提供ソフトの開発と利用. 第3回生活支援工学系学会連合会(第5回日本生活支援工学大会)講演予稿集, 157, 2005

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

坊岡峰子, 本多留美, 綿森淑子, 介護士のコミュニケーション・スキルアッププログラムの開発 - 介護士の「コミュニケーションスキル評価票」の作成 - , 県立広島大学保健福祉学部誌人間と科学, 第9巻(1), 91-110, 2009, 査読あり.

坊岡峰子, 介護士のコミュニケーションスキルアッププログラムの開発, 関西学院大学大学院社会学研究科(社会福祉学)博士論文, 全108頁, 2008

[学会発表](計5件)

Booka Mineko, Watamori Toshiko, Booka Masayuki, Development of a Communication Skill-Up Program for caregivers : Improving quality of communication between caregivers and a institutionalized

older adult with aphasia through the use of AAC ,13th Biennial Conference of the International Society for Augmentative and Alternative Communication – ISAAC 2008, 2008.8.5, Canada

坊岡峰子, 本多留美, 介護士のコミュニケーション・スキルアッププログラムの開発とその支援, 第 34 回日本コミュニケーション障害学会学術講演会, 2008.6.1, 大阪

坊岡峰子, 介護保険施設におけるコミュニケーション・ケア向上に向けたアプローチ - 介護士のコミュニケーション・スキル・アップのための支援とその効果 - , 関西学院大学 2006 年度 COE 若手研究者研究成果発表会, 2007.2.21, 西宮(兵庫)

坊岡峰子, 浅野 仁, 綿森淑子, 介護士のコミュニケーションスキルアップのための支援プログラムの開発～言語聴覚士による支援内容と効果～, 第 48 回日本老年社会科学大会, 2006.6.15, 西宮(兵庫)

坊岡峰子, 本多留美, 綿森淑子, 他 5 名, 介護士のコミュニケーションスキルアップのための支援プログラムの開発, 第 7 回日本言語聴覚士学会, 2006.5.7, 金沢

〔その他〕

研究者紹介

[http://www.pu-hiroshima.ac.jp/10\\_research/01\\_researcher/02\\_list/index.html#point10](http://www.pu-hiroshima.ac.jp/10_research/01_researcher/02_list/index.html#point10)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

坊岡 峰子 (BOOKA MINEKO)  
県立広島大学・保健福祉学部コミュニケーション障害学科・助教  
研究者番号: 80405521

### (2) 連携研究者

本多 留美 (HONDA RUMI)  
県立広島大学・保健福祉学部コミュニケーション障害学科・講師  
研究者番号: 10290553

金子 努 (KANEKO TSUTOMU)  
県立広島大学・保健福祉学部コミュニケーション障害学科・教授  
研究者番号: 70316131

資料1 コミュニケーション・スキル評価票 ST用

対象者: \_\_\_\_\_ 回目 (支援前 ・ 支援後)

	評価項目	評価レベル															
1	介護者は対象者の表出(含,非言語表出)が理解できている時は、うなづくなど明確にフィードバックをしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
2	介護者は対象者の表出内容(含,非言語表出)が理解できない時は適切に聞き返していたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
3	介護者は対象者の表出内容にまとまりがないときや矛盾する時には、話をまとめるなど会話がスムーズにすすむような工夫をしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
4	介護者は対象者の発語以外の表出にも注意をはらっていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
5	介護者が対象者の反応を待つ時間は適切だったと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
6	介護者は対象者と(物理的に)適切な距離を保っていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
7	介護者は対象者が発語による表出が難しい時には、残存能力をいかにせるコミュニケーション手段の使用を促していたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
8	介護者は対象者に合わせた、適切な言葉遣いをしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
9	介護者は対象者の注意を確認、あるいは喚起しながら話をしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
10	介護者は対象者の表出を促すような話しかけ方をしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
11	介護者は対象者の理解能力に合った話しかけ方をしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
12	介護者は次の画面(違うカテゴリーの静止画、あるいは動画)にすすむタイミングを対象者主体に決めていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
13	動画の時、介護者は対象者に動画の内容を説明していたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
14	話題は、画面の内容だけではなく対象者にとって身近なことも話題にしていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
15	介護者と対象者とのやりとりのバランスは適切だったと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
16	介護者は対象者に対して共感的であったと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
17	全般的に二人の会話は楽しい雰囲気だったと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													
18	全体としてみると二人のコミュニケーションはうまくいっていたと思いますか？	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>どちらかといえば</td> <td>どちらかといえば</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>そう</td> <td>思わない</td> <td>どちらともいえない</td> </tr> <tr> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>そう</td> <td>思う</td> <td>NA( )</td> </tr> </table>		どちらかといえば	どちらかといえば			そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない	そう	思う	そう	思う	NA( )
	どちらかといえば	どちらかといえば															
そう	思わない	そう	思わない	どちらともいえない													
そう	思う	そう	思う	NA( )													